

2011年度
高知大学大学院人文社会科学専攻 修士論文発表会
&
学会創設準備会シンポジウム
タイムテーブル

【日 時】 2012年2月18日（土） 10：30～17：00
【場 所】 高知大学人文学部棟5F 人文学部第1会議室

10：30～10：40	開会ならびに日程説明（教務委員長）
《午前の部》	
10：40～11：00	遺跡保存運動の実態と住民の役割 — 島根県田和山遺跡を事例に — 辰見 知香（杉谷隆・清家章）
11：00～11：20	来日インドネシア介護福祉士候補生における諸問題 — 異文化を中心に：現場でのコミュニケーション上の問題 — AJI SETYANTO（奥村訓代・古閑恭子）
11：20～11：40	日本における児童養子縁組の課題 — 他国の養子縁組事情と対比して — 下川 仁子（Darren Lingley・小澤萬記）
11：40～12：00	日本民族宗教史からみる宗教定義 井上 瞬（安藤恵崇・武藤整司）
（休憩 12：00～13：30）	
《午後の部》	
13：30～13：50	高知県観光者の実態と観光誘致施策のあるべき姿 尾崎 幸夫（中澤純治・上田健作）
13：50～14：10	産業連関分析による中国インフラ整備の検討 — 江西省南昌市の地下鉄建設を中心に — 楽 敏（佐野健太郎・大石達良）
14：10～14：20	講評（専攻長）
（休憩 14：20～14：50）	

《 (仮称) 高知総合人文社会科学会 創設準備会シンポジウム 》

グローバル化と地域の構想力
— 高知の視座から —

高知大学人文学部は、人文・社会科学の総合的研究機関として、これまで様々な研究活動を行ってきました。学部には多様な学会・研究会が存在し、2004年度より「高知の視座」に基づく分野横断的なプロジェクトが始動するなど、組織的な研究も行われています。さらに、1999年度より大学院人文社会科学研究科（現・人文社会科学専攻）が新設され、学部卒業生、社会人、留学生を毎年受け入れ、修了生を社会に輩出してきました。

人文学部では、こうした活動を踏まえ、人文社会科学の総合的な研究交流の場づくりを目指すべく、新たに学会を創設する準備を進めています。私たちが目指す学会とは、大学の枠を越えた多様な人々との双方向のコミュニケーションの場を形成し、地域の発展に寄与することにあります。今回は、この活動の一環として、「グローバル化と地域の構想力 — 高知の視座から — 」と題するシンポジウムを開催することになりました。

現在日本では、少子高齢化や経済格差、震災復興、TPP など、深刻な問題を抱えるとともに、経済のグローバル化や行財政改革の影響により、地域社会の持続可能性が一層危ぶまれています。高知県は、こうした問題を数多く抱える「最先端」地域であり、経済・社会・文化の多方面で困難に直面しています。今回のシンポジウムでは、このような地域が抱えている問題の所在について、政治・経済・文化の角度から光を当てるとともに、地域の中から今後の展望を探っていきたくと考えています。学外の方も含め、どなたも参加自由です。ぜひ当日、会場までお越しいただき、議論にご参加下さい。

14 : 50～15 : 00	趣旨説明 (岩佐 和幸)
15 : 00～15 : 15	グローバル化下の地方分権改革 — 橋本県政の意義と限界 — 根小田 渡
15 : 15～15 : 30	グローバル化と地域経済の危機 岩佐 和幸
15 : 30～15 : 45	高知の文化と黒潮流域圏 吉尾 寛
(休憩 15 : 45～15 : 50)	
15 : 50～16 : 50	総合討論 (司会 小澤 萬記)
16 : 50～17 : 00	閉会の挨拶 (専攻長)